

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(4/12)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
みえライフイノベーション総合特区 (三重県)	正	3.8	4.0 進捗度 ・統合型医療情報データベースの規模 70% ・医療・福祉現場ニーズの収集件数 122% ・医薬品・医療機器生産金額 68% ・研究開発支援拠点プラットフォームの活用機関数 364% 等	3.6 規制の特例等 ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施 財政支援等 ・みえライフイノベーションプラットフォーム整備事業 等 地域独自の取組 ・医療・福祉機器等研究開発補助金 等	3.8	<p>・全体として県をあげてしっかりとした取組がなされ、多様な産業創出の契機を生み出していると評価できる。</p> <p>・医療・福祉現場のニーズ収集、研究開発支援プラットフォームの利用機関数、健康福祉分野の企業・研究機関の立地が増加していることは、総合特区による企業の研究開発支援の成果として評価できる。</p> <p>・地域独自の各種補助金制度による研究開発から上市への効果は未だ認められない。特区本来の規制の特例措置に関する支援強化を検討するとさらに成果が期待できるのではないかと。</p> <p>・統合型医療情報データベースの利活用はまだ具体的になっておらず、全国での同種の試みとの差別化も含め今後の検討課題といえる。</p> <p>・評価指標(4)の研究開発支援拠点プラットフォームの活用機関数については、各年度の達成水準に比して目標値の見込みが低すぎた感もあり、進捗管理の指標として考えた場合、そもそもの目標設定の考え方について振り返りが必要である。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。